

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0471400226		
法人名	有限会社 庄司ケアサポート		
事業所名	グループホーム日和		
所在地	宮城県東松島市赤井字台94		
自己評価作成日	H27年6月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/04/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	平成27年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム日和は開設12年になります、庭には少しの畑があり、今年ジャガイモ・ニンジン・茄子・トマト・大根・等々毎日の草取り水まき、楽しく時間を共有しております、日和の理念優しさ・気配り・思いやり・を元に時を重ねても変わらないことは、入居者様が何時でも自由に喜怒哀楽が自然に表現できるよう真っ直ぐに何方に対しても変わらない対応、又介護者はおひとりお一人の出来る力、心を大切に何時でもどんな時でも受容共感の必要性を感じ関わりを大切にし地域の皆様方にも何かと交流協力頂き、又毎日入居者様の言動に心が和み介護者の心を癒やして頂くことも度々本当に有りがたく楽しく仕事が出来ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三陸道石巻港インター近く、畑や学校、直売所などが点在する地域にある1ユニットのホームである。開設して12年、1ユニットという少人数の特性を活かし、利用者の思いの実現や日々のケアに、細やかに臨機応変に対応しており、社長や管理者はこのことを大切にしている。地域住民対象にAEDの講習会を夜間に開催し毎回40~50人が参加し、市から福祉避難所として指定されている。今後、近隣の復興公営住宅の高齢者の支援に積極的に関わろうと検討しており、地域貢献を意識した事業運営に取り組んでいる。これらの活動や、日常的な地域交流により、事業所や利用者は地域との関係を強めている。職員は利用者の残存能力を活かすケアに努めており、家族の信頼はあつい。市職員は運営推進会議や行事にも参加しており、ホームの事業運営について理解しており連携も強固である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム日和）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設12年目益々地域、家族近隣の皆様と互いに協力、日和の理念元、社長始め管理者全スタッフが共有し実践に繋げている。	運営理念に地域密着型サービスの意義を謳っており、事業所理念「優しさ、気配り、思いやり」を策定、事務室、廊下などに掲示し、全体ミーティングで確認している。新人研修時に理念の意味を学び、職員はケアに生かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	創設以来町内会に加入様々な行事(夏祭り・避難訓練)等参加、又町内の方々に野菜を作り販売所其処に買い物てらお茶のみし交流させて頂いている。	町内会に加入し、防災訓練・夏祭りなどに参加し、近隣の直売所での買物を楽しんでいる。ボランティアが訪問しており、小学校との交流も予定している。今後、近隣の復興公営住宅の支援を、地域包括支援センターと連携して進めていくことを検討していく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	益々高齢化独居もく多交流、声掛見守り行っている又震災後AEDを設置講習会行い地域の皆様に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には入居者様始め市担当者、町内役員、民生委員、家族様の参加頂き年6回開催している行事及び日常の様子報告している。	隔月、町内役員・民生委員・市担当者、利用者と家族には全員に案内している。社長も出席し、行事や介護保険制度などの報告や、食費や、必要経費について、意見交換している。復興公営住宅の高齢者への支援について委員から提案され検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域及び施設での看取りについて相談市町村主催の研修会等行い多数参加している。	市の担当者は運営推進会議や事業所の行事に参加し、外部評価にも同行し、協力関係が構築されている。福祉避難所として指定され、管理者が市主催の研修会で看取りについて講師をした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	創設12年施錠することなく自由に庭に出て畑の草取り近隣とお茶のみフェンス越しの立ち話に花を咲かせている。家族との話し合いの元一人散歩に出掛ける方もありお花など頂き帰宅されることもある。	日中の施錠はしていない。外出傾向を把握し必要に応じ、職員がさりげなく見守り付き添っている。近隣住民との交流から顔馴染みの関係が構築されており、一人で外出する利用者もいる。職員は研修などから受容と共感することを学びケアに生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の入浴により身体の確認、認知症高齢者に対するの対応を事あるごとに話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護保険法の理念の1つである自立支援について日々の業務の中でも、繰り返し話し合い常に活用している制度に付いても機会を設け研修会参加、全スタッフで活用できるよう内部研修も行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学して頂き契約時十分な説明を行い納得確認して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎回集金は事業所に直接持参して頂きその際個々の状況報告、意見要望をお聞きする又運営会議等にも反映させている。	家族が毎月利用料を持参する時に、日常の報告とともに、要望や相談を受ける。運営推進会議は家族全員に案内しており、意見を出せる場となっている。家族からレクリエーションの経費値上げの提案があった。第三者委員は民生委員を委嘱している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第一金曜日社長始め全スタッフでミーティングを行い、自分たちの質を高めるにも何故介護職を選んだのか意識確認、日々個々(入居者様)に合わせた介護を行える様にしている。	月に一度、社長出席のもと全職員でのミーティングが、意見を述べる場である。業務記録のためのパソコンの導入や夜勤体制について要望があり改善された。又、社長や管理者抜きで職員が話合う機会も持たれ、職員が運営について検討できる環境がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には目標を持ってやりがいの有る仕事内容の工夫、個々の年数に合わせ免許研修等行って居る又その受験料等負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社直ぐ社内研修を行いひとり一人力量に合わせ対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者同士の勉強会にも参加、日和主催AEDの講習会にも参加頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前の段階で十分要望をお聞きし安心して頂き、新たな事にも耳を傾け良い関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階で家族のニーズに耳を傾け良い関係づくり出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階での必要性の検討を十分行い本人家族と話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心とこころが通じ合い心地よい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族の気持ちを大切にしつつ、出来る限り一緒に過ごせるよう工夫、お正月お盆には話し合い外泊の促している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	震災後馴染みの場所、人、環境が大きく変化し混乱あり、あえて触れず毎日のドライブ、時にはお友達をホームに誘い面会して頂く等工夫している。	普段から家族や友人が訪れやすい雰囲気づくりを心掛けており、行事への家族の参加は多い。地元の健診を受けに行ったり、被災した自宅までドライブしたりしている。馴染みの美容院、墓参りなどは家族と出掛けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日和の皆様はホールで集うこと多く賑やかに過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方々から退去者OB会でも作ったら等と声を掛けて頂いたり、ウエス等(古タオル)送って頂いたり交流して頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の気持ちを大切に時にはドライブ時合いたい方に会いに行く等ゆっくり時間を掛意向の把握に努め、又家族様とも現在そして	職員は、入浴時やドライブに出かけた時など一対一になった時に思いを把握する事を意識している。各人の「意思疎通の方法」が文書化され、思いを伝えることが出来ない利用者からの意向把握にも努めている。日々出てくる要望にきめ細かく応えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ドライブ時には自宅までご案内視るだけでも安心されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の有する能力に合わせ声掛けし行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月時には随時職員必要性に合わせた計画作成をしている。	ケアプランは短期3ヶ月・長期6ヶ月の目標があり、基本3ヶ月ごとに、また状態に応じ随時見直されている。モニタリングは、全職員の意見をまとめて作成している。医師や看護師(管理者)、家族の意見も反映される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況の送りは朝・夕行きずきを多く随時情報交換行い共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人その時々に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にも利用者の体調に合わせ健康教室等にも参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時本人家族と検討し合い往診して頂ける施設の掛かりつけ医で良いとのこと納得されている。又認知症の状況にも合わせ専門医にも受診行い対応している。	往診も行う協力医療機関をかかりつけ医としている利用者が多い。認知症専門医とかかりつけ医との連携も出来ている。通院は家族と職員が付添い、家族だけのときはバイタル表にて、情報提供している。歯科医への通院介助は家族と連携して行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での利用者の変化にスタッフは早期発見、看護職に報告、医師に連絡(携帯電話)受診行い時には往診していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には個々の状況に合わせ、できる限り早期退院出来るよう、関係者との情報交換相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明とその方の身体状況に応じた対応(看取り時の互いの意志確認)医師、家族又日頃より死について自然な形と捉え利用者様と会話を多くしている	看取りを行っている。入居時に重度化における看取り指針を説明し、重度化した場合は、家族に医師が説明し、同意書ももらっている。職員は看取り後の家族のケアも意識し、全員がレポートを書きカンファレンスを行っている。管理者が看護師で、夜中の対応も可能なので夜勤の職員は心強い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時事故発生時のマニュアルを常備応急手当、初期手当AED講習を受け実践を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所は地域の協力を頂き年二回の避難災害訓練行い各居室にスプリンクラー設置しており、又市町村の災害訓練にも参加している。	年2回、夜間を想定し地域住民、区長も参加し、消防署と避難経路などの確認をしている。地域には回覧板で避難訓練参加を案内している。職員が一人で車いすの方を含め全員を避難させる訓練をしている。火災報知器などは点検もされており、備蓄は4日分、毎晩食卓を壁側に動かし、より避難しやすい経路を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用時お呼びする名前の確認、又入室時にはノックし、トイレ誘導時にもそっと耳元での声掛け配慮している。	呼び名は入居時に聞き本人の意向を尊重している。トイレ介助時には、職員は戸を閉め外で待ち、入浴時タオルを使い露出を少なくするなど工夫している。利用者からの要望があれば、同性介助の配慮も行う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に何を思い希望しているか日常生活の中から感じ取れるよう会話を多くし自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースに合わせた対応し日々生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の入浴時には、介護者と一緒に自分なりに選んだ洋服又、お出かけの時には普段よりおしゃれな洋服、装飾品、口紅等できうきで出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様始め調理師、スタッフで美味しく目でも楽しめるよう工夫し、時には食材選び個々の能力に合わせ一緒に調理をしている。	調理担当のスタッフがあり、看護師の管理者が栄養管理を担う。1日30品目、魚と野菜中心のメニューとなっている。職員と利用者は一緒に食事をし、スーパーや直売所に買い物に行き、後片付等をしている。水分・食事を記録し、体重測定、血液検査を健康管理に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスよく、目でも楽しめ美味しく摂取出来るようにし、又水分量の確認、記録して(一日1500cc)いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日三回の口腔ケアは念入りに、それぞれに合わせ口腔ウエット、スポンジ、モンダミン等しっかり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しほとんどの方は綿パンツ使用夜間もトイレ誘導、自立排泄の促しを行っている。	排泄パターンを把握し、立位を保ちトイレで排泄できるように、その人に合わせた支援をしている。夜間はトイレ誘導する人、ぐっすり眠ることが必要な人には尿取りパッドを使用するなど個別対応をしている。夜間の尿量を量りデータをとりその人にあったパッドを使う工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心に一日30品目目標に、個々に合わせ工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴している、スタッフと二人の時間を十分に楽しむ様子有り、拒否の有る方は時間の工夫行いお誘いしている。	利用者は、毎日好きな時間に入浴しており、楽しみにしている。お湯の取り替えは、必要に応じ随時交換している。体調により、清拭や、足浴などを取り入れている。重度の利用者は、職員2人で支援している。湯上りに保湿クリームを使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中楽しく活動的に過ごせるよう散歩やドライブ、体操など行っています。お昼時間も確保し、安心して気持ちよく眠れるよう温度湿度も十分配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとり一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について記録や申し送りし全スタッフ周知状態変化の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活でそれぞれの得意分野の確認行い役割分担し発揮していただいている。毎日のドライブ、買い物毎月のイベントは楽しく参加している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様は毎日のドライブを始め、家族様との旅行、天気の良い日には畑の草取り、お花の水かけ、それぞれ工夫し楽しんでいる。又農家の朝取り野菜の直売所があり買い物、有る方は一人での散歩を楽しまれている。	ほぼ毎日のドライブが、利用者の楽しみになっている。年間計画のイベントには家族も参加し、バスを借りて出かけている。花見には利用者全員で出かけた。近隣のスーパーや直売所に職員と買い物に行っている。一人での散歩もさりげなく見守っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方もいっしょに買い物時には財布持参で支払いされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話等預かり、かけたい時楽しそうにお話しされている。又手紙はご自分で書きポストに出しに行かれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはほとんど自宅で使用されていた物の持ち込みをお願いし混乱を防いでいる、部屋にはお花などを飾り毎日の水あげを日課にされ、室内には室温度計設置毎日確認その方にあつた対応している。日中はほぼホールで皆さん過ごしている。	リビングや廊下は吹き抜けになっており、天井から陽が入り明るく、どっしりした食卓、大きな時計が、落ち着いた雰囲気を出している。小上がりの畳のスペースでは、利用者が洗濯物をたたんだりしている。温湿度は適切に管理され、玄関には家族の持参した花が飾ってあつた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席以外にも仲の良い気の合った同士と一緒に座り談笑お茶のみ行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時馴染みの物を持ち込んで頂き本人が居心地よく、又慣れるまで一緒に寝泊まりして頂くなど工夫している。	利用者は、馴染みのものを持ち込み、担当の職員により、すっきりと整えられている。エアコンの温度は利用者に合わせ職員が温度管理している。クローゼットは広く、衣類は家族の協力で季節ごと衣替えしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別 unnecessaryな物は置かず環境整備し、自室では庭の花を摘み水やり、時折暑いのか自分で窓を開ける等工夫されている。		